

# 在宅医療・介護連携の 今後の方向性と市町における 取組状況について

令和6年2月  
三重県医療保健部長寿介護課

## 1. 在宅医療・介護連携に関する市町取組状況調査（概要）について

- ① 目的  
紙面調査及び市町ヒアリングにより、市町が在宅医療・介護連携推進事業のあるべき姿を意識しながら、主体的に課題解決を図り、P D C Aサイクルに沿った取組を進めることができるようになることを目的とする
- ② 実施方法  
紙面調査およびオンラインヒアリング
- ③ 実施時期  
令和5年11月～令和5年12月
- ④ 実施内容
  - ・在宅医療・介護連携の具体的な取組（在宅医療の状況、身寄りのない人への支援、入退院支援・ACP・救急との連携等）を調査した。

## 1. 現状と課題

- 既存の支援では難しい同意の問題
- 既存の制度で支援できないことが包括支援センターやケアマネに対応を求められる
- 緊急対応が必要なことが多い
- 家族の協力が難しい方（8050問題、家族の不仲、音信不通）もいる
- ガイドライン等が現状に追い付いていない
- エンディングノートの理解、浸透が追い付かない

## 2. 現在の取り組みと今後の方向性

### ① 相談体制について

- 重層的支援の実施や検討
- 総合相談窓口の開設
- 遺言や任意後見制度等を相談できる公証相談
- 民生委員や地域包括が独居高齢者を訪問し、相談できる体制の構築
- 支援者間の連携

## 2. 現在の取り組みと今後の方向性

### ②成年後見制度等

- 日常生活自立支援事業から成年後見制度につなげる
- 市長申立て成年後見の手続き
- 自治体独自の見守り体制の構築

### ③救急連絡票等

- 救急キットの活用（独居、高齢者世帯）
- 独居高齢者の救急搬送時の課題について検討

### ④民生委員との協力体制

- 要援護者台帳で民生委員とケアマネが情報共有
- 民生委員に実態調査（75歳以上）を依頼

### ⑤啓発

- 元気なうちからのACP（人生会議）の普及啓発（ホームページ、広報、YouTube作成）
- 地域ケア会議での啓発
- リーフレットを作成し、通いの場などで住民への啓発
- 公正証書にて身上監護や、財産管理が可能なことの周知

## 4. 今後の方向性

### ⑥研修

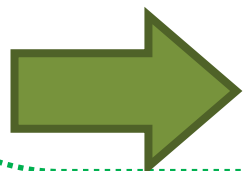
- ・ 専門職研修会（医療、介護、法律家との合同）

### ⑦他機関との連携

- ・ 救急連絡票等（救急キッドの活用（独居、高齢者世帯））
- ・ 救急搬送時の課題について検討
- ・ 関係者と協力して実態調査を実施

### ⑧その他の取組

- ・ 地域ケア会議で決定
- ・ チームで合意のうえでの意思決定
- ・ 保健・医療・福祉の顔の見える関係づくり
- ・ 介護タクシー事業者調査
- ・ 身寄りのない方の現状把握のためのアンケートの実施
- ・ 「身寄りのない人の入院・入所に関するガイドライン」を作成
- ・ 入退院支援との連携として、医療機関及び入所施設を対象にした調査の実施



- ・ 一人で抱え込まない体制づくり
- ・ 重層的な支援体制

## ①入退院支援について

### ➤ 現状

- ・「入退院マニュアル」についての勉強会、意見交換会の実施
- ・「入退院マニュアル」はなく、病院の入退院ルールに従っている
- ・連携シートの作成・活用
- ・病院によってはWEB会議で退院時カンファレンスの開催がある

### ➤ 課題

- ・病院によって、退院支援の対応に差がある
- ・職種間での連携にも課題がある
- ・他圏域の入退院について把握ができていない

### ➤ 取組

- ・「入退院マニュアル」について、定期的に見直している
- ・事例検討や意見交換を通じて、いつでも相談できる関係性を作る
- ・他圏域に入院した場合、その圏域で使用されている入退院ルールや様式を使用
- ・ICTを活用した連携方法を活用している
- ・看護協会と連携構築のための事業を行う。

## ②ACP(人生会議)について

### ➤ 現状

- ・ 市民や専門職を対象とした研修会の開催
- ・ エンディングノートは、作成している市町と既製品を活用する市町がある

### ➤ 課題

- ・ 「エンディングノート」の活用方法が難しい
- ・ 住民や一部の専門職のACPの認知度が低い

### ➤ 取組

- ・ 研修会を継続していくことが重要
- ・ ACPは「自分のこと」として考えることができることが大切

### ◆ 専門職対象とした研修会等

- ・ ACPに関する法律の実務
- ・ 意思決定支援
- ・ 「エンディングノート」の理解及び本人等へのアプローチ方法等

### ◆ 住民対象とした研修会等

- ・ YOUTUBE・行政テレビ・広報を活用
- ・ 図書館等での展示
- ・ 出前講座（小規模）での普及啓発
- ・ ゲームを活用した普及啓発
- ・ エンディングノートの書き方講座の開催
- ・ 映画会
- ・ ACPと住民に関心がある成年後見制度や福祉を内容とした研修会の開催

### ③在宅医療と救急との連携について

#### ➤ 現状

- ・ 救急医療情報キットの普及啓発
- ・ 施設等からの救急搬送について、市町によっては問題は生じていない
- ・ 市町の規模によっては消防担当と在宅医療・介護連携担当と会議を行わなくても連携できている

#### ➤ 課題

- ・ 救急側と在宅医療側の課題の整理ができていない
- ・ 高齢者施設からの救急搬送について、夜間一人対応の施設職員に救急車の同乗を求められたり、ケアマネや市町職員が呼び出されるなどがあり、対応に困っている
- ・ 身寄りのない方の救急搬送時の付き添いや心肺蘇生の意味確認等が課題
- ・ 救急医療情報キットの情報更新
- ・ 緊急時の情報連絡票や救急医療情報キットを知らない、知っているが患者・利用者に勧めてはいない、という専門職もいるため、関係者に向けた普及啓発を行う必要がある



#### ➤ 取組

- 救急搬送・救急での治療の現状を把握するため、消防・病院との合同研修の開催
- 「高齢者施設における救急対応マニュアル作成のためのガイドライン」の作成・活用
- 「救急医療連絡票」等の作成、活用の検証、見直しにむけての検討
- 住民向け研修会や広報での普及啓発
- 住民への「エンディングノート」の周知
- 身寄りのない方をテーマとした勉強会で、救急搬送についての検討とルール化
- 地域包括支援センターやケアマネージャー等での個別事例検討会を開催
- 急変時のバックベッド体制を整備
- 救急医療情報キットの記載項目の検討
- 消防団との連携

## ④その他取組

### ➤ 取組

- 在宅医療・介護連携事業の取り組みを学会発表している。
- 在宅医療における医療機関の機能調査。
- 「高齢者の住まい」に関する情報一覧」を支援者間で共有。
- 出前講座を行う。
- 介護人材確保の検討を生活支援体制整備事業と連携して行う。
- オンライン診療の実証調査。
- 有料老人ホームやサービス付き介護住宅と連携した看取りの研修。
- 災害時の事業継続計画（BCP）研修の実施
- 在宅医療の研究会への消防職員の参加

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(桑名市)

●連携拠点名称	委託先:桑名市在宅医療・介護連携支援センター(桑名医師会)
●目指すべき姿や方向性	「最期の時を住み慣れた場所で迎える」という選択ができるまちを目指して

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第9期桑名市地域包括ケア計画策定に伴い、関係機関に実施した意識調査の結果をとりまとめ在宅医療に関する状況把握を行った。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度に桑名市在宅医療・介護連携支援センターを設置しており、在宅医療・介護連携は、桑名市在宅医療・介護連携支援センターと共同で事業を行っている。</li> <li>・オンラインや対面での研修会や市民講演会等の開催を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療・介護の連携拠点施設として、桑名市在宅医療・介護連携支援センターが在宅医療・介護関係者からの相談の対応と連携の支援を行うとともに、在宅療養患者に必要な情報の提供を行っている。</li> <li>・地域の現状や課題を関係者と共有し、同職種と多職種で対応策を検討し、専門職向けの研修会や多職種研修会を企画、実施している。</li> <li>・市民を対象に、在宅医療やACP、救急医療情報キット等について、周知・啓発を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター、訪問看護協会、社会福祉士会、訪問介護事業者連絡会、介護支援専門員協会等のオンライン研修会やオンライン会議のバックアップを通じて、課題の収集や今後の協働に向けて多職種、多事業所との関係性を強化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護事業所はICTの利用が少なく、研修会等への参加は毎回同じ事業所であったり、同じ方が出席することが多くなり、普及・啓発が広がっていない。</li> <li>・緊急時の情報連絡票や救急医療情報キットを知らない、知っているが患者・利用者に勧めてはいない、という専門職もいるため、関係者に向けた普及啓発を行う必要があることが課題</li> <li>・地域住民への在宅医療やACPの認知度をいかにして高めていくか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関・介護事業所を対象に実施した意識調査から、多職種で連携を強化できると思いますかという問いに対して、更に強化できる(したい)と回答している事業所が多いため、それぞれの役割について理解を深めながら連携を強化していきたい。</li> <li>・地域住民の在宅医療やACPの認知度は十分ではないため、今後も周知啓発に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいトークや市民講演会等を通じて、ACPIに関する啓発を実施した。</li> <li>・他課(介護予防支援室)の取組になります。関係者間(医療機関、包括、社協、在宅医療・介護連携支援センター、市)でワーキングを立ち上げ、実際の事例や情報の共有、課題の整理について協議を重ねている。身元保証が求められる理由や課題を把握するため、医療機関及び入所施設に向けて、来年度アンケート及びヒアリング調査を準備中。身寄りの有無に関わらず、安心して暮らせる仕組みや連携体制について検討予定。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<p>「くわな入退院の手引き」を作成し、情報提供書等の様子をホームページに掲載(桑名市在宅医療・介護連携支援センター)</p> <p>URL: <a href="https://www.kuwana-med.com/center/guidance.html">https://www.kuwana-med.com/center/guidance.html</a> (桑名市)</p> <p>URL: <a href="https://www.city.kuwana.lg.jp/hokeniryo/kenkou/iryuu/24-67531-261-786.html">https://www.city.kuwana.lg.jp/hokeniryo/kenkou/iryuu/24-67531-261-786.html</a></p>	<p>ACPプランニングシートをホームページに掲載(桑名市在宅医療・介護連携支援センター)</p> <p><a href="https://www.kuwana-med.com/center/acp.html">https://www.kuwana-med.com/center/acp.html</a> (桑名市)</p> <p>URL: <a href="https://www.city.kuwana.lg.jp/hokeniryo/kenkou/iryuu/24-65578-261-786.html">https://www.city.kuwana.lg.jp/hokeniryo/kenkou/iryuu/24-65578-261-786.html</a></p>	<p>市民向け救急医療情報キットリーフレットと緊急時の情報連絡票をホームページに掲載(桑名市在宅医療・介護連携支援センター)</p> <p>URL: <a href="https://www.kuwana-med.com/center/emergency.html">https://www.kuwana-med.com/center/emergency.html</a> (桑名市)</p> <p>URL: <a href="https://www.city.kuwana.lg.jp/kaigo/anzen/kyuukyuu/2-482-195-261-381.html">https://www.city.kuwana.lg.jp/kaigo/anzen/kyuukyuu/2-482-195-261-381.html</a></p>	<p>ゆめはまちゃん医療・介護ネットワークを運営</p> <p>問い合わせ先 桑名市在宅医療・介護連携支援センター TEL0594-22-8200</p>	<p>桑名市民公開講座「はっぴいえんど“幸せな最期”とは何か」の開催</p>	10

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(木曾岬町)

●連携拠点名称	直 営(木曾岬町)
●目指すべき姿や方向性	本人、家族、医療・介護関係者の満足が得られ、「最期の時を住み慣れた場所で迎える」という選択ができるまちを目指す

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療】</b> ・町内に往診対応の医療機関が1つあり、他に隣市の在宅医療実施医療機関を利用されている。</p> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b> ・平成30年度に在宅医療・介護連携支援センターを地域包括支援センター(直営)に設置。 ・在宅医療・介護連携支援事業については、桑名市と共同実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種研修会(対面・オンライン研修) ACP研修会専門職向け(1回) 入退院支援(1回) 消防本部合同(2回)</li> <li>・市民講演会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模であり、町内の資源が少ないため、医師会管轄内である桑名市と共同実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県境であり、県外の資源の活用がある。利用する事業所等も限られており、病院との連携もその都度ケースごとに対応している。利用する先に合わせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACP(人生会議)について、救急時の連携について、作成したシートや連絡票の普及・啓発</li> <li>・入退院時情報提供書等入退院時の支援について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別対応</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くわな入退院の手引き」桑名医師会ホームページ掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバンス・ケア・プランニング(ACP)シート 桑名医師会ホームページ掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の情報連絡票 桑名医師会ホームページ掲載 木曾岬町版を広報折込。内容は同様。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トマッピーネットワーク」(電子@連絡帳) 担当:木曾岬町地域包括支援センター TEL:0567-68-8183</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>桑名市民公開講座「はっぴいえんど“幸せな最期”とは何か」の開催</li> <li>桑名市在宅医療・介護連携支援センター実施の多職種研修会を、町内支援者にトマッピーネットワークにて周知</li> </ul>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(いなべ市)

●連携拠点名称	いなべ市在宅医療・介護連携支援センター(直営)
●目指すべき姿や方向性	令和5年度重点目標「連携から協働へWithコロナ～ACPと入退院連携の推進」

(1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年度に市内に在宅医療を専門とする医療機関が新設された。在籍する医師数も増え、訪問診療数も増加している。</li> </ul> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いなべ市役所内に連携拠点を設置し、医療・介護関係者からの相談対応を実施。</li> <li>・在宅医療介護連携推進事業は、東員町と共同実施している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いなべ在宅医療・介護連携研究会の開催 第1回テーマ:(ハイブリッドで開催) ・現場で使えるLGBTの理解Part1 「多様な性～家族の願い」</li> <li>・現場で使えるLGBTの理解Part2 「多様な性～医療・介護従事者に知ってほしいこと」 第2回テーマ(会場での対面開催) 「もしバナゲームを一緒にやってみよう」</li> <li>・医師会との合同研修会「高齢者の呼吸器疾患について」</li> <li>・住民向け啓発事業 ・福祉委員会第1層協議体オブザーバー参加「みんなで支え合う地域づくりフォーラム」にて在宅医療介護連携研究会運営委員会の活動紹介</li> <li>・地区単位など小集団を対象としたACPの啓発講話の実施。</li> <li>・「健康フェスinイオンモール東員」医療・福祉の専門職による各測定体験コーナー、「笑い与健康」落語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部ハイブリッドでの開催としたが、ほぼ対面での開催を実施している。</li> <li>・事業の周知に多様な配信ツールを活用。(ホームページ、FMラジオ、SNSなど)</li> <li>・住民啓発に関しては、住民の集まる場所に向いて啓発する方向で実施することや、他部門との共催での開催を試みている。</li> <li>・対象者が研修等に参加してみようと思えるように、出来る限り現場の意見を反映したテーマの選択を考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で開催をWEBで行ってきたためか、会場開催での研修参加率が以前に比べ低いと感じる。お互いに顔の見える関係作りをしてきたが、一時の途絶えから再度医療と介護の連携のための顔の見える関係作りの困難さを感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から開始した消防職員との意見交換では、施設や在宅からの救急搬送に関する情報連携シートに関する意見が多くあった。令和5年度は、施設からの搬送に関する対応を検討するための分科会を設置し、緊急時の情報連絡票を作成した。今後は作成した連絡票の施設への普及啓発を実施していく。</li> <li>・ACPの普及・啓発のため、メディアを利用しつつ、小さい単位での市民の集まる場所に向向き、丁寧に説明を行うなど実施していきたい。</li> <li>・気楽に集まり医療と介護の従事者が話ができるような場所作りとして、定期的なカフェの開催を考案中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身寄りのない方の医療同意について、包括支援センターの方と同行で現状をまず知るために、近隣の病院との会議を実施している。各病院でも課題として取り上げていることもあるため、今後検討を重ねていく予定。</li> </ul>

(2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いなべ地域入退院の手引き」</li> <li>⇒いなべ市HPに掲載</li> <li>・令和5年度は、隣接する桑名地域の手引きの見直し検討の場に市担当者も参加し、共通した取組の調整について検討を始めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発ツールとして市販のエンディングノートを活用し市役所窓口や、図書館で配布している。</li> <li>・市民への啓発として集まりの場所へ出向き、終活セミナーを実施している。</li> <li>・いなべエフエムでの番組を通じてACPに関連する話題を取り上げている。</li> <li>・年2回の研究会での1回は医療・介護従事者向けのACPに関する研修を開催している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度から、在宅医療の取組を具体的に検討する運営委員会に消防職員も参加依頼し、話し合いに参加してもらっている。</li> <li>・救急分科会の委員の依頼</li> <li>・在宅医療の研究会への消防職員の参加促進</li> <li>・次年度は消防職員と包括支援センターとお互いの業務・役割について知ることをテーマに研修会を予定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いなべ地域ケアネット」(MCSの活用)</li> <li>⇒いなべ市HPに掲載</li> <li>・地域の登録者数は200名程までになったが、新規事業所へ出向いてMCSの活用例の紹介など行うなど普及に関する継続的な取り組みが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンディングノートは既製のものを使用したがる、市民からは、他のものに比べ記載ページが少ないので書きやすそうであるという言葉も聞かれている。エンディングノートに記載の方法についてまとめたものをA4両面で付けて配布している。</li> </ul>	<p>12</p>

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(東員町)

●連携拠点名称	直営(東員町)
●目指すべき姿や方向性	「連携から協働へWithコロナ～ACPと入退院連携の推進」

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療】</b> 町内には在宅医療機関はないが、近隣市の在宅医療機関が町全域を支援いただいている。かかりつけ医で往診対応可能な医療機関もある。</p> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b> 東員町健康長寿課内に在宅医療介護連携支援センターを設置。在宅医療介護連携推進事業はいなべ市と共同実施している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急分科会</li> <li>・第1回研究会の開催(ハイブリッド)</li> <li>・入退院連絡会議(入退院連携)の開催</li> <li>・医療ソーシャルワーカー&amp;ケアマネジャーとの連携研修会</li> <li>・終活・ACPの啓発 広報への掲載、エンディングノートの配布</li> <li>・地域包括支援センターが中心となり啓発</li> <li>・住民啓発「健康フェスinイオンモール東員</li> <li>・いなべ医師会講演会</li> <li>・第2回研究会の開催(対面・集合研修)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会や研究会など、4年ぶりに集合研修で実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナでWEB会議や研修会などの開催が多く、顔の見える関係が希薄になりつつあるのではと感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACPの普及啓発</li> <li>・消防署との連携</li> </ul>	

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<p>「いなべ入退院の手引き」 ⇒東員町HPに掲載</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終活・ACPの啓発 広報への掲載 エンディングノートの配布</li> <li>・地域包括支援センターが中心となり「もしバナゲーム」など住民への啓発</li> <li>・住民啓発事業として、人生会議をテーマに落語(手話落語)を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療介護連携研究会運営委員会の委員として消防職員に参加。</li> <li>・緊急時の情報連携のためのルールづくりのため、消防、病院、医師会、介護などで構成する分科会を開催。</li> </ul>	<p>「いなべにぎわいネット」 いなべ地域におけるICTの名称で、MCS(メディカルケアステーション)を活用した情報連携を推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民啓発として、健康フェスinイオンモール東員を開催</li> <li>・専門職にはLGBT研修会を2回</li> <li>もしバナゲームを通したACPIについての研修会を開催</li> </ul>	



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(四日市市)

●連携拠点名称	四日市市在宅医療・介護連携支援センター「つなぐ」(四日市医師会)
●目指すべき姿や方向性	医療と介護を受けながら安心して、最期まで自分の希望する場所で暮らせるよう、医療と介護の連携を一層強化していく。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内に在宅医療機関が34箇所ある(R5.11月時点)</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度に連携拠点として在宅医療・介護連携推進支援センター(通称:つなぐ)を設置。</li> <li>拠点では、多職種連携に係る相談支援や課題の抽出、市は課題への対応の検討や政策形成を担当しており、適宜打合せを行うなど連携強化に努めている。</li> </ul>	<p>【研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャー等向け等研修会</li> <li>訪問看護ステーション向け研修会</li> <li>病院看護師在宅医療派遣研修</li> <li>医療・介護ネットワーク研修会</li> </ul> <p>【事例検討会、意見交換会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携室職員(MSW・退院調整看護師)とケアマネジャーの事例検討、意見交換会</li> <li>在宅主治医とケアマネジャーの意見交換会</li> <li>退院調整看護師の意見交換会</li> <li>在介医療職と退院調整看護師の意見交換会</li> </ul> <p>【市民啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療市民啓発活動事業</li> <li>市民企画による啓発活動(講演会等)にかかる経費の一部を補助。</li> <li>※R5年度(見込み) 7団体10事業</li> </ul>	<p>【研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラムについて受講ニーズを確認しながら計画するとともに市医師会の動きとも連動を図りながら実施している。</li> </ul> <p>【事例検討会、意見交換会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護関係者が直接顔を合わせることで、顔の見える関係づくりを推進している。</li> <li>課題だけでなく、好事例の共有も行いながら、効果的な連携方法を検討している。また、地域や病院単位で開催することで、実際に起きていより身近な事例について検討できるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護関係者向けの研修会等について、参加者が毎回同じような顔触れとなることが多い。また市民向けの啓発(講演会等)においても同様の課題がみられる。</li> <li>医療・介護関係者の連携全体に係ることとして、情報共有が的確にされていないことや、コミュニケーション不足から発生する課題がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・介護連携の要となるケアマネジャーへの支援として、知識習得だけでなく、医療職との円滑なコミュニケーションの向上にも目を向けた参加型の研修。</li> <li>最期まで本人の望む生活が送れるよう、またより質の高い医療・介護サービスの提供のため、ACPの普及啓発を推進していく。これまでの医療・介護関係者や終末期の高齢者に向けた取組だけでなく、元気高齢者や若い世代を対象とした方策を医療・介護関係者とともに検討している。</li> <li>新型コロナウイルス感染症のまん延時には、顔の見える関係性の構築がやや難しい場面も見られたが、あらためて意見交換会等によって、互いに必要とする情報や、その伝達方法、タイミング等を確認するとともに、医療・介護関係者が一堂に会する医療・介護ネットワーク会議等において、課題の共有や対応策を検討していく。</li> </ul>	<p>医療と介護の連携における支援については、退院支援時の患者の問題点に則した具体的計画の策定や、緊急時の対応等を医療・介護関係者が確認し合えるよう、退院時カンファレンスマニュアルの周知や、連携支援ツールによる情報共有の円滑化に努めていく。</p> <p>また、医療・介護に係る意思決定が困難な人への支援においては、本人が希望する医療・介護サービスが提供されるよう、まずはACPの取り組みを広く市民に啓発していく。</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>退院時カンファレンスマニュアル 冊子のみ。</li> <li>必要な市町があれば、保健企画課企画係まで連絡ください。</li> <li>医療と介護の連携シート</li> <li>四日市市HP掲載</li> <li><a href="https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1606728846218/index.html">https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1606728846218/index.html</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これからノート ACP普及啓発冊子。冊子のみ。</li> <li>必要な市町があれば、保健企画課企画係まで連絡ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わたしの気持ち 救急搬送時の情報連携シート。</li> <li>冊子のみ。</li> <li>必要な市町があれば、保健企画課企画係まで連絡ください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>くすのきネット(ID-LINK)</li> <li>医療機関間の医療情報共有システム。また、四日市市ではシステムの一部を活用し、診療所や介護関係者等との情報共有システムとしても活用している。</li> <li>市町担当:保健企画課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャー等向け研修会</li> <li>令和2年度～4年度 講義動画を市YouTubeに掲載</li> <li>令和5年度 ACP、心不全(YouTube)、ACPロールプレイング研修(対面)、在宅主治医との意見交換会(対面)</li> <li>訪問看護師向け研修会</li> <li>四日市看護医療大学への委託により、経験年数に応じたカリキュラムによる研修を開催。講師は市内医療・介護関係者や県外大学講師等。</li> <li>在宅医療市民啓発活動事業</li> <li>平成23年度～市民企画による啓発活動(講演会・勉強会など)にかかる経費の一部を補助。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療と介護の便利帳“むすぶ”</li> <li>医療・介護関係者の円滑な連携のため地域資源を集約した冊子。</li> <li>在宅医、在宅歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、地域連携室、リハビリテーション事業所、管理栄養士の地域別リスト</li> <li>訪問歯科診療の申し込み手順</li> <li>薬局在宅療養サポートの申し込み手順</li> <li>権利擁護に関する相談窓口リスト</li> <li>など</li> </ul>

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(菟野町)

●連携拠点名称	菟野町在宅医療・介護連携支援センター「つなぐ」(菟野厚生病院内)
●目指すべき姿や方向性	再検討中

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療】</b> 訪問診療は近隣市(いなべ市、四日市市)のクリニックを利用。病院は1か所、地域包括ケア病棟を備えている。</p> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b> 菟野厚生病院内に連携拠点(地域包括支援センターランチの委託の一環)</p>	<p>菟野地域在宅医療介護ネットワーク研修会(WEB) 関係者向け(介護事業所、ケアマネジャー等) ①アンガーマネジメント続編(WEB) ②③食べること・嚥下機能評価について(対面) (講師:歯科医師) ③一般住民向け在宅医療講演会(緩和ケアについて:3月予定)</p>	<p>今年度より、菟野地域医療介護ネットワーク研修会の一部を対面で実施。 講演会についても、会場で開催予定。</p>		<p>ACPの普及啓発</p>	<p>このことに特化した取り組みはありません。 個々のケースごとに対応しながら、必要な部署間で連絡調整を図り対応しています。</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<p>三泗管内の入院ケースは四日市市の退院時カンファレンスマニュアルを利用させていただいています。 菟野町独自のものは特にありません。</p>	<p>市販の終活ノートを公共施設等に配置。 菟野町独自のものは特にありません。</p>	<p>菟野町独自のものは特にありません。</p>	<p>菟野町独自のものは特にありません。</p>	<p>菟野町独自のものは特にありません。</p>	



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(朝日町)

●連携拠点名称	朝日町地域包括支援センター
●目指すべき姿や方向性	健康づくりから医療、介護、ターミナルケアに至る一連の保健、医療、福祉について、地域包括支援センターが中心となり、多職種協働・連携を行い、地域包括ケア体制を構築する。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <p>・平成30年4月より地域包括支援センター内に「在宅医療・介護連携支援センター」を設置。</p> <p>以前から桑名市、四日市市の医療機関にお世話になるケースが多く、新規利用者の退院時やケアマネへの繋ぎなどが必要な際は、包括へ連絡をいただき対応している。</p> <p>・月1回、三師会・行政・包括で地域ケア会議を開催し、連携強化に努めている。</p>	<p>・住民向けの講座を実施。</p> <p>今年度は12月に歯科医師会による講演会を実施。また医師会には1月、薬剤師会には2月に講演会を依頼している。</p>	<p>・住民向け講座の周知は町内回覧、社協ホームページ、フェイスブックと、介護予防事業やサロンへ参加された方へのチラシ配布となっており、自分から情報を得ようとする方にだけ届くという課題がある。</p> <p>包括からの周知も限界がある為、参加者同士での誘い合いを促した。その結果、僅かながら参加者増もあり、見守りにも繋がっている。</p> <p>何事においても知らない環境へ参加する場合、知人からの誘い出しは効果的であると感じている。</p>	<p>・コロナ禍は事業所との連携、担当者会議等も照会が多くなっており、顔の見える関係が作り難く、それにより利用者の身体状況について、病院とケアマネ、事業所とケアマネ間で、若干、身体状況の理解が違うことがあったが、最近では面談も緩和され、そのような問題は緩和された。</p> <p>・しかし、熱発がある場合の受け入れはコロナ禍を経て厳しくなっており、入院を希望したが受け入れてもらえず、家族が困ることがあった。</p>	<p>・三師会と毎月地域ケア会議を開催していることから、各会の進捗状況を情報共有、状況に応じた課題を把握し、その課題については地域や施策へ反映させていく。</p> <p>・コロナに限らず、感染症対策を徹底して事業を継続していく。</p>	<p>身寄りがないことを本人が問題視し、支援を希望された場合は、日常生活・身元保証・死後事務等を行ってくれる事業所を紹介することになるが、令和に入り、仲介したケースはない。</p> <p>孤独死対策として、日頃から見守りに繋がるような民生委員との情報共有や、宅配サービス、介護保険サービス等で関わっていければ良いが、それでも望まれなかったり、拒否をされる方もあるが、常に危険性の高い方として把握はしておく必要がある。</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<p>四日市市へ入院した場合</p> <p>・朝日町独自(他市町を参考にしたもの)の入院時情報連携シートを活用。退院時は退院時カンファレンスマニュアル(令和4年3月改訂・四日市医師会作成 つむぐ)を活用。</p> <p>桑名市へ入院した場合</p> <p>・くわな入退院の手引きを活用</p> <p>海南病院へ入院した場合</p> <p>・入院時情報連携シートを活用</p>	<p>・四日市医師会製作「これからノート」があるが、上手く活用できていない。</p>	<p>・包括が把握してる方で救急を要請した場合、簡素的なシート(緊急連絡先、医療機関、既往歴程度)で情報提供している。</p> <p>・救急医療情報キットの活用。</p>	<p>・朝日町は四日市医師会管轄内であるが、桑名市内の病院へ通院する住民が多い為、四日市市のID-Linkへは参加していない。</p>	<p>住民向けの「人生会議」講演会は、令和5年度は未実施だが、令和3、4年度は1回ずつ医師を招き開催した。</p>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(川越町)

●連携拠点名称	川越町地域包括支援センターで相談対応等を実施
●目指すべき姿や方向性	在宅等における医療・介護の切れ目のないサービスを地域で提供できるよう、町診療所、医師会、介護サービス事業所等との連携により、在宅医療と介護の連携体制の強化を目指す。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】 在宅医療の相談や対応が増加してきている。 在宅医療機関が町内にないため、地域連携室連絡会を通じた連携を行っている。</p> <p>【在宅医療・介護連携】 地域包括支援センターの総合相談において、24時間365日体制のを整え、救急の対応も実施している。</p>	<p>四日市市医師会が主催する地域連携室連絡会へ参加。</p> <p>ACP・権利擁護をテーマにした住民・介護関係者向け研修会(地域包括ケア研修会)の開催(対面)</p>	<p>連携先となる医師会が四日市医師会となり、在宅医も町外在住となるため、四日市医師会主催の地域連携室連絡会に参加し、具体的な課題や対応策の検討を行っている。</p> <p>この中で定量的な分析は行っていないが、具体策として連携の中で完成した「退院時カンファレンスマニュアル」、「これからノート」(ACP)の活用実践のあり方を検証し、権利擁護やACPをテーマにした研修会を実施することとなった。</p>	<p>医療と介護の連携シートの一層の普及と理解の促進</p> <p>ACPに関することや「これからノート」の町民への理解や普及・啓発</p>	<p>引き続き、相談窓口の周知・関係機関との一層の連携・顔の見える関係づくり</p>	<p>地域包括支援センターと情報共有し、他の部署、福祉事務所等と連携して対応。</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<p>退院時カンファレンスマニュアル、医療と介護の連携シート、地域包括支援センターの案内チラシ 定期的に四日市医師会の「つながり」のアンケート調査に回答することで面談等支援を受けている。</p>	<p>これからノート</p>	<p>地域包括支援センターで対応。「延命の希望」などACPの内容を共有している。</p>	<p>なし</p>	<p>ACP・自筆証書遺言書保管制度について</p>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(鈴鹿市)

●連携拠点名称	鈴鹿市在宅医療・介護連携支援センターすずらん（直営（鈴鹿市））
●目指すべき姿や方向性	切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】 市内に機能強化型在宅支援診療所(連携)が18か所、在宅支援診療所が14か所あり、連携を図っている。</p> <p>【在宅医療・介護連携】 在宅医療ケアシステム運営委員会(多職種連携会議)を年4回開催。コロナの状況に応じZoomを活用しながら開催している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療・介護の連携に係る相談支援</li> <li>「コロナ禍の振り返りと今後」をテーマに、多職種向けの勉強会を開催(ハイブリットまたは会場型)</li> <li>「ACP」をテーマに、多職種向けの勉強会として事例発表やシンポジウムを開催</li> <li>多職種向けに人生の最終段階の経過や、意思決定支援を学ぶ講座としてエンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座を開催</li> <li>「鈴鹿市の在宅医療ケアの現状と問題点」をテーマに、多職種によるワークショップ形式の研究会を開催</li> <li>専門職の部会の研修開催を支援</li> <li>訪問介護や訪問看護、病院等の専門部会の運営支援</li> <li>新型コロナ対策三者会議</li> </ul> <p>1回/週、Zoomにて開催。医師会、保健所、行政(長寿社会課、地域医療推進課、消防、学校教育等)と情報及び課題を共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーターを保健師だけでなく医師にも担ってもらい、助言を受けながら相談支援を行っている。</li> <li>勉強会は感染リスクだけでなく、参加負担を軽減するためにもハイブリットでの開催を行っている。</li> <li>新型コロナウイルス(インフルエンザを含む)について、高齢者施設において利用者及び職員が感染した場合、週初めに報告をしてもらっており、三者会議で情報共有を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門知識を持つ職員が少なく、相談支援に時間を要することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページのリニューアルを予定しており、多職種の双方向の連携ツールとして構築していく。</li> <li>患者の情報連携ツールであるバイタルリンクを普及させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域ケア推進会議においてガイドライン案を作成しており、病院等の協力を仰ぎながら支援体制を整えていく。(鈴鹿市在宅医療・介護連携支援センターすずらんではなく、長寿社会課が進める)</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンディングノート(わたしの人生ノート)</li> </ul> <p>鈴鹿市社会福祉協議会HPで掲載 <a href="https://www.suzuka-shakyo.or.jp/fukushi/houkatsu.html">https://www.suzuka-shakyo.or.jp/fukushi/houkatsu.html</a></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急ハンドブック・情報提供シート</li> <li>施設と消防、救急病院との連携シート</li> </ul> <p>(夜間等救急搬送時は原則同乗であるが、職員配置状況により同乗できない場合は、必要事項を記載した情報提供シートにかえて、職員は病院からの問い合わせなど施設で対応することにより、同乗を求められない。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>双方向の情報連携ができるホームページの構築。</li> <li>バイタルリンクの普及。</li> </ul>		18

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(亀山市)

●連携拠点名称	亀山市立医療センター 地域医療部 地域医療課
●目指すべき姿や方向性	市が主体となり、ホームケアネットの利用促進や、介護施設等と市医療センターとの連携を進めていく。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かめやまホームケアネットを運用し、在宅療養者の相談支援や多職種の連携・調整を行っている。また、市医療センターは後方支援病院として、地域の医師会や医療機関との連携を図りながら、地域包括ケア病床による在宅復帰、介護者のレスパイトなど在宅療養の支援を行っている。</li> </ul> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療連携推進協議会を開催し在宅医療の周知啓発や方向性について協議を行った。</li> <li>・多職種連携研修会開催し、顔の見える関係性の構築に努めている。(3回/年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修会の開催(3回/年 対面式)</li> <li>・市民公開講座予定(R6.1.28)</li> <li>・かめやまホームケアネット利用者や多職種への支援やマネジメントを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携調整を図るとともに、在宅医療連携推進協議会の中で、多職種の情報共有、取組検討、評価を行っている。</li> <li>・在宅医療を支える医療・介護の専門職が、多様なニーズに応じた適切な支援ができるよう、多職種連携研修会を通じて、医療・介護職の質の向上に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅での終末期医療やケアに際して、高齢者本人が希望する医療やケアが実施されやすくなるようとの話し合い持つよう、終末期における本人の意思確認の方法を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンディングノート、リビング・ウィルの普及と併せて、家族・医療従事者との話し合い持つよう、ACPの普及の推進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年10月から市社会福祉協議会に専任の職員がいる中核機関を設置し、成年後見制度の利用促進を図っている。また、市長申立てによる成年後見制度の適切な実施のため、マニュアルや日常生活自立支援事業からの移行ガイドラインを検討している。(現在地域医療課では取組を行っておらず市の担当課で上記の取組を行っている。今後、担当課と地域医療課で情報共有や連携を図る必要がある。)</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルの作成はしていないが、かめやまホームケアネットの仕組みを利用。(亀山市ホームページ掲載)</li> <li>・介護支援専門員と主治医との連携が適切に図れるよう、手引きの活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングウィル冊子配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、高齢者の救急搬送の問題について、消防機関との情報共有していく必要あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有システム「バイタルリンク」</li> <li>【内容】 インターネットを活用して患者情報を在宅医療・介護に従事する関係者間で共有し、より良い在宅ケアを提供する。</li> </ul>	<p><b>【住民普及啓発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座開催(年1回)</li> <li>・地域へ出向きミニ講演会開催(3回/年)</li> <li>・広報特集号掲載(年1回)</li> <li>・かめやまホームケアネットPR動画(亀山市ホームページ)</li> </ul> <p><b>【支援者向け研修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修会(3回/年)</li> </ul>	



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(津市)

●連携拠点名称	津市在宅療養支援センター
●目指すべき姿や方向性	【医療・介護の連携の推進(津市第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画より)】 津市在宅療養支援センターを中心に、在宅医療・介護連携の強化及び在宅医療の充実を図るため、医療・介護にまたがる様々な支援を包括的・継続的に提供する連携体制の拡充を図り、医療への依存度が高まっても、高齢者ができる限り在宅で過ごすことができる地域を目指します。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内在宅医療機関は70箇所(R5.12時点)ある。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年7月に医療・介護連携拠点である「津市在宅療養支援センター」を両医師会に委託し設置。</li> <li>同センターは、運営協議会が上位組織となっており、次に医療・介護の機関の代表者で占める在宅医療・介護ネットワーク会議があり、実働部隊として3つの部会(マップ作成、研修・啓発連携体制)を置き、事業を推進している。参集にて各部会を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携研修会 令和5年度は全4回参集で開催。</li> <li>市民講演会 在宅医療やACPIに関して住民啓発。令和5年度は全1回参集で開催。</li> <li>各種調査実施(予定も含む) 医療機関調査、病院地域連携部署調査、居宅介護支援事業所調査、介護支援専門員調査、在宅施設アンケート調査、薬局調査、訪問看護調査、訪問リハビリ調査、バイタルリンク利用調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携研修会等 多職種の顔のみえる関係づくりのため参集で実施している講義だけでなく、参加者同士のディスカッションも盛り込み、多職種が興味を持てる内容としている。</li> <li>市民講演会 津市在宅療養支援センターホームページ(tuzaitaku@zc.ztv.ne.jp)で実施された講演会を公開予定</li> <li>各種調査 多職種からの意見(課題)を基に、アンケート内容項目を多職種と検討し、活用できるよう情報収集している。</li> <li>津のわの会議(地域相談窓口関係者連絡会議)と津ながる会議(病院地域連携部署連絡会議)の合同会議を実施し情報共有した。</li> <li>「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の趣旨を踏まえた支援体制を構築して関係機関に周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参集で研修会や講演会を開催するにあたり参加者が増加している為、適した会場の確保に苦慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携体制部会において「自己決定できない人の支援」(ACPと多職種連携の推進)を実施。</li> <li>有料老人ホーム等の在宅施設における在宅医療の現状把握をすすめ、市民が終末期を選択できるような情報提供体制づくり。</li> <li>今までの各種調査結果の分析を行い、在宅医療・介護連携の課題の抽出及び検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身寄りのない方を含めた自己決定できない人の支援について、取り組んでいる。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の在宅医療・介護資源を把握し、津市在宅療養支援センターホームページでの情報提供を行っている。</li> <li>『津市在宅医療・介護連携ブック(関係者向け)第3版』令和5年12月発行</li> <li>令和5年度病院地域連携部署情報書類取り扱い窓口調査を実施し、関係者ページに病院連携室・書類取り扱い窓口情報を掲載</li> <li>津のわの会議(地域相談窓口関係者連絡会議)を入退院支援をテーマに開催(予定)。津ながる会議(病院地域連携部署連絡会議)の担当者の参加予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ACP啓発媒体「いつまでも地域で自分らしく過ごす～自分らしく幸せのために～」(令和5年3月発行)を市民に対応する地域包括支援センター、生活支援コーディネーター等に「もしバナゲーム」を通して周知</li> <li>自分の最期、家族の最期を考えたことの啓発を継続していく。</li> <li>自己決定できない人の支援担当者や看取りの冊子等(初回相談時、家族向け、関係者向け)を作成中</li> <li>人生の最終段階における医療・ケア体制整備事業 本人の意向を尊重した意思決定のための相談員 研修会に参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医療情報用紙 患者の救急搬送時に、かかりつけ医、既往や服薬、連絡先等の情報共有ができるよう、「救急医療情報用紙」を津市在宅医療・介護ネットワーク会議で検討し、作成。令和3年5月に津市在宅介護支援センターホームページに掲載。在宅施設関係者への周知を予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイタルリンク(帝人ファーマ)を活用。</li> </ul>	<p>《令和5年度》 支援者向け研修:大規模災害時の水・トイレ問題と業務継続(BCP)策定のポイント～災害の備えにおける患者・利用者への啓発・支援を考えよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多職種連携で取り組むACP～ACPを理解して、多職種連携でACPを進めていこう～</li> <li>在宅施設での看取りを考える～さまざまな立場から話を聴いて～</li> </ul> <p>市民向け講演会:朗読劇『在宅医療をご存じですかPART3～頼りにしていた妻と暮らせなくなった～』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護職向け医療知識研修会(対象者:居宅・包括・訪問介護・在宅施設関係者)予定:「介護職に知ってほしい薬の知識」「介護職に知ってほしい心臓病の話」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組情報は津市在宅療養支援センターホームページ(tuzaitaku@zc.ztv.ne.jp)で公開。</li> </ul>

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(名張市)

●連携拠点名称	名張市在宅医療支援センター(名賀医師会)
●目指すべき姿や方向性	医療介護福祉の多職種・多機関の連携をすることにより、生まれ育ったまち、住み慣れたまちで暮らし続けることの実現をめざします。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】 12月1日現在、在宅療養支援診療所が4カ所あり、その内2カ所は、単独型の機能強化型在宅療養支援診療所です。</p> <p>【在宅医療・介護連携】 ・名張市在宅医療支援センター運営会議1回/年 ・名張市在宅支援実務者会議 数回/年 構成員(選出組織):名賀医師会、伊賀歯科医師会、伊賀薬剤師会、三重県訪問看護ステーション協議会、三重県介護支援専門員講義会、三重県理学療法士会、相談支援専門員、伊賀保健所、寺田病院、名張市立病院、名張消防本部、名張市福祉子ども部(医療福祉総務室、地域包括支援センター)オブザーバー:伊賀市立上野総合市民病院岡波総合病院、上野病院 ☆運営会議と実務者会議の2層構造</p>	<p>・多職種連携研修(コミュニケーションアップ研修) 令和5年9月28日開催 ・多職種連携研修(講義編) 令和6年2月29日開催</p>	<p>1 実務者会議においては個々の職種からの選出ではなく、職能団体からの選出と団体内での情報共有の機会を作るように働きかけている。R4年度から消防署救急担当職員を構成員に追加した。 2 R5年度から実務者会議に名張市地域包括支援センターの全世代包括支援担当者を構成員に追加した。重層的支援体制整備事業における多機関協働事業や支援会議等、他事業との連動を図り、本事業の課題の共有とケース検討の場、在宅医療・介護と生活・社会的な視点における福祉分野との連動を図っている。</p>	<p>当市の人口構成の特徴より、後期高齢者、単身高齢者の増加が急激であり、要介護状態の方の増加も著しい。既存の事業やサービスの利用に至ることが難しい支援を要する家族も増えている。医療機関や介護事業所等関係機関との連携においても、説明を理解し同意を得ることが困難であったり、通院や契約行為が難しい事例も多い。権利擁護事業の連携にとどまらず、利用に至るまでの具体的な伴走を要する。緊急性によっては本人の同意がなくても情報連携ができる仕組みも必要としている。事業と事業の間または事業に乗らない場合、医療やサービスを利用したくても既存公的サービスで利用までの細々した支援がない場合に、本人や家族に長期間並走することにかかなりの稼働を要する。また、多機関や多制度をコーディネートする技術も要する。</p>	<p>1 要介護者等の個々の支援での多職種連携を深めるとともに、新たなサービスの創出を含めた専門職団体、組織との連携、システム構築を目指していく。 2 介護保険制度の対象者だけでなく、全世代にわたる医療介護福祉の連携、システム構築を目指していく。</p>	<p>1 単身高齢者、高齢者のみの世帯等を対象に民生委員児童委員に依頼して「高齢者実態調査」を毎年行って、「身寄りのない方」の実態を把握している。調査できない方等については、地区担当保健師等が訪問等により把握に努めている。 2 身寄りのない方の救急搬送については、名張市福祉事務所として対応している。 3 上記のことについて、消防も入れて実務者会議で情報提供など行い、関係者の現状の共通理解と地域包括支援センターから権利擁護事業の理解推進をはかるように努めている段階。</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<p>・三重県看護協会伊賀支部で実施する「看護職連携構築事業」(三重県委託事業)の開始当時から準備会に参画。 R4年度は、「退院支援マップ」を作成。 R5年度は、この「退院支援マップ」の活用を含めて、退院支援をテーマに集合研修を開催した。 ・直営の地域包括支援センターとして、各病院地域連携部署等に積極的に情報共有及びカンファレンスの実施を依頼している。</p>	<p>・検討が必要な方や情報提供を望まれる方には出版社作成の既存リーフレットを参考に相談に応じる ・出前講座においては媒体を独自に作成</p>	<p>・名張市立病院との在宅主治医との連携【様式:名張市立病院ホームページに掲載】 (1)在宅主治医は『在宅医療救急システム登録票』を記載し、在宅医療支援センターを通じ名張市立病院へ届ける。 (2)名張市立病院は『在宅医療救急システム登録票』が届けられたら、速やかに『在宅医療救急システム登録済証』を、在宅医療支援センターを通じて在宅主治医に届ける。 ・R4年度から消防署救急担当職員を在宅支援実務者会議の構成員に追加した。</p>	<p>・地域包括支援センター内、ランチまちの保健室職員間でタブレットを所持し、同一システム内において、連絡事項等情報共有やオンライン会議、自他のスケジュール管理、文書管理、訪問先において資料の可視共有、撮影画像の共有等している。</p>	<p>・在宅チームケアについての説明(寸劇)YouTube動画【在宅医療支援センターホームページからリンク】 ・『よく/vari青春体操』リーフレット、ポスターを関係機関に配布するとともに、DVD、負荷ウエイト貸し出し、普及啓発、地域のサロン等で実施。名賀医師会作成YouTube動画、本体操の普及を目的に市が作成したYouTube動画を配信中。</p>	<p>・R5年度に「令和6年版 医療・介護福祉ガイドブック、マップ」を作成、各戸配付します。 ・保険局モデル事業を受け、「医師会等(名張市在宅支援実務者会議構成団体)との情報連携支援」を実施。社会生活面の課題のある方の情報連携を医師や薬剤師と実施し、医療や介護以外の社会的支援により課題解決を図る試みをしている。またその事例傾向や地域課題を分析し本事業や重層的支援体制整備事業との連動を図っている。</p>

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(伊賀市)

●連携拠点名称	直営:伊賀市地域包括支援センター
●目指すべき姿や方向性	「伊賀市地域医療戦略2025」において設定した「救急医療強化ゾーン」及び「在宅医療推進エリア」を中心とする地域医療デザインの実現

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<b>【在宅医療】</b> <b>【在宅医療・介護連携】</b> ・医療・介護関係者等からなる「保健・医療・福祉分野の連携検討会(以下「連携検討会」)」において課題の抽出や議論を実施。	・連携検討会において現在実施しているお薬手帳を活用した在宅患者サポート事業を継続的に実施している。 ・伊賀医師会主催(伊賀市共催)の在宅医療講演会を開催した。 ・将来的な展望から、連携検討会で医療・介護連携ICTツールを情報共有し、さらなる多職種連携の可能性について意見交換を行った。	・連携検討会において現在行っている事業の進捗状況の確認、課題整理、改善を行っている。 ・地域包括ケアシステムを含めた医療・介護連携に繋がる新たな取組を検討している。	・多職種連携を推進するため、連携検討会において顔の見える関係づくりを進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で会議開催の中止が度重なり、多く取り組みが進みにくくなっている。だが、令和5年度からは順調に開催できている。	・引き続き、連携検討会において情報共有を行い、現在行っている事業の進捗状況の確認、課題整理、改善を行う。 ・保証のしくみづくりなどの新たな取組を検討し、実施していく。	・入院に至らなかった場合の救急搬送時の帰宅手段についての確保等を検討している。 ・24時間365日の対応ができる介護タクシー事業者等について調査等を実施している。

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
・入退院については、病院の地域連携室と地域包括支援センターで連絡を取り合い、カンファレンスを行う。	・鎌倉新書との官民共同事業による伊賀市版エンディングノートを作成。窓口にて冊子を配布。 伊賀市のホームページからダウンロード可 URL <a href="https://www.city.iga.lg.jp/cmsfiles/contents/0000011/11253/endingnote.pdf">https://www.city.iga.lg.jp/cmsfiles/contents/0000011/11253/endingnote.pdf</a>	・お薬手帳を活用した在宅患者サポート事業について消防本部と情報共有し、消防本部にも連携検討会に参画してもらっている。 ・独居高齢者等の救急搬送時に円滑に医療機関へ搬送ができるよう、患者の緊急連絡先・既往歴などの情報を共有できる情報カード等の連絡ツールの改良検討を進めている。	・将来的にはICTの活用も検討する必要があるが、顔の見える関係づくりをより高めていくためにお薬手帳を連絡ツールとした取り組みを進めている。 ・将来的な展望から、医療・介護連携ICTツールについて連携検討会で事項として取り上げ、運営事業者を招聘し、多職種連携のさらなる可能性等に係る意見交換を行った。	・医師会との共催による地域住民を対象とした講演会を実施した。 ・市広報による情報発信を実施(毎年度、特集掲載)	



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(松阪市)

●連携拠点名称	松阪地域在宅医療・介護連携拠点(松阪地区医師会館内)
●目指すべき姿や方向性	4市町(松阪市・多気町・明和町・大台町)、連携拠点、地域包括支援センター、医療・介護関係者、地域住民が協力して各種取り組みを進める。連携拠点については、主体的な取り組みができるよう、地区医師会や4市町行政との連携・協力体制を強化する。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>在宅療養支援病院が1病院増え、在宅療養支援病院・診療所は併せて24医療機関となった。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年4月に松阪地区医師会館内に設置</li> <li>松阪管内4市町と連携拠点で月1回の定例会を実施。管内3町についてはWEB参加で、情報共有により連携強化に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅医療における医療機関の機能調査を実施。地域の専門職が調査結果を活用できるよう、在宅医療についての情報をまとめる。</li> <li>情報共有システム すずの輪(ICT)を活用し、多職種が連携し合い在宅医療に取り組んでいる。</li> <li>多職種勉強会 (WEB) 毎年2回開催しており、①訪問看護②重症化予防をテーマに勉強会を開催。多職種での意見交換を実施。</li> <li>在宅医療市民講演会(会場) 「最期まで私らしく生活するためのヒントを見つけよう」をテーマに、在宅医療・多職種連携について、医師・専門職による講演会とパネルディスカッションを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種勉強会のWEB開催は、感染症対策、参加者の移動時間などを考慮して令和5年度も引き続きWEB開催とした。今後は会場開催も検討していく。</li> <li>情報共有システム すずの輪(ICT)に登録いただいている事業所へ使用状況の聞き取りなどを実施しニーズの把握に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実態やニーズの把握をするための対話や関係づくり。</li> <li>多職種勉強会は実施できているものの、WEB開催のため対面での顔の見える関係づくりを望む声に対応ができていない事。100名を超える参加者が集まり、グループワークなどを行うことができる場所の確保が課題。</li> <li>情報共有システム すずの輪(ICT)へ登録後、専門職に有効に活用してもらおうこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有システム すずの輪やホームページも含めたWEBの有効活用。</li> <li>事業所へ赴き、連携拠点の周知や顔の見える関係・連携作りに取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援体制について、今後の更なる仕組みづくりに向けて、地域包括ケア推進会議のテーマの一つとし、検討した。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>「医療と介護の連携ハンドブック」データの公表予定はなく、松阪地域で運用している情報共有システム すずの輪からのみダウンロード可能。令和6年度の報酬改定に伴う更新について協議。</li> <li>「松阪地域の「高齢者の住まい」に関する情報一覧」データの公表予定はなく、松阪地域で運用している情報共有システム すずの輪からのみダウンロード可能。</li> <li>「在宅医療における医療機関の機能調査」結果在宅医療を実施している医療機関情報をまとめたもの。データの公表予定はなく、松阪地域で運用している情報共有システム すずの輪からのみダウンロード可能となる予定(令和6年2月中旬以降)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>松阪市版エンディングノート「もめんノート」希望する市民に対し配布必要な市町あれば、松阪市ホームページより全文ダウンロード可能。</li> <li>URL: <a href="https://www.city.matsusakamie.jp/site/koureisya-wel/list128-1997.html">https://www.city.matsusakamie.jp/site/koureisya-wel/list128-1997.html</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者施設における救急対応マニュアル作成ガイドライン」データの公表予定はなく、松阪地域で運用している情報共有システム すずの輪からのみダウンロード可能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有システム すずの輪</li> <li>内容:株式会社カナミックネットワークTRITRUS</li> <li>医療介護に関わる様々な専門職が同じシステムを活用し、在宅での療養を希望する方の状況や体調の変化、服薬状況、療養上の注意点などを共有し、在宅ケアが継続できる環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度 在宅医療市民講演会(市民向け)</li> <li>内容:2部構成にて実施。</li> <li>&lt;第1部&gt;在宅医療について、松阪地域で実際に在宅医療を行う医師による講演会。</li> <li>&lt;第2部&gt;在宅医療を支える多職種の役割・連携について、松阪地域の医療専門職等6人でディスカッション。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の冊子・資料等は松阪市のホームページにてダウンロード可能</li> <li>※各冊子・資料名で検索してください</li> <li>「在宅医療を考える」</li> <li>「大切な人の最期看取ることについて」</li> <li>「認知症ハンドブック」</li> <li>「在宅医療に関するアンケート調査結果(最終報告)」</li> <li>「松阪地域在宅医療・介護連携拠点広報紙 わおん」</li> </ul>



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(多気町)

●連携拠点名称	松阪地域在宅医療・介護連携拠点
●目指すべき姿や方向性	4市町、連携拠点、地域包括支援センター、医療・介護関係者、地域住民が協力して、本人の暮らしを支えるためによりよい連携が図れることを目指す

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<b>【在宅医療】</b> <b>【在宅医療・介護連携】</b> ・松阪市と多気郡3町で在宅医療・介護連携拠点を設置 ・町内入所系6施設が有事の際の相互応援協定を締結	・(連携拠点)連携拠点管内のサ高住等の情報を収集し、リスト化。ケアマネ等に配布し、支援の資料として活用。 ・住民啓発イベント「レインボーフェスタ」(R5.10.22) ・多職種勉強会	・(連携拠点)多職種勉強会などをオンラインで開催。	・医療との連携がしづらい。	・連携拠点との連携強化 ・町民への普及啓発	

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
・(連携拠点)医療と介護連携ハンドブック	社協に委託して実施している介護予防教室に出向き、「もしバナゲーム」を実施し人生の最期を考えてもらうきっかけ作りを行う。	・消防団にて、救急搬送時に活用するため救急カプセルを独居高齢者等に配布。	(連携拠点)平成30年度から情報共有システム「すずの輪」を運用		

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(明和町)

●連携拠点名称	松阪地区 在宅医療・介護連携拠点
●目指すべき姿や方向性	4市町、連携拠点、地域包括支援センター、医療・介護関係者、地域住民が協力して本人の暮らしを支えるために よりよい連携が図れることを目指す

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援についての取組状況
<p><b>【在宅医療】</b> 生活困窮者等を対象に、地域包括支援センターと済生会明和病院ケースワーカー・看護師と自宅訪問し、健康福祉相談を実施。</p> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b> 平成30年4月に松阪市・多気町・大台町・明和町で松阪地区在宅医療・介護連携拠点を設置している。 松阪地域医療と介護の連携ハンドブックの活用。</p>	<p>在宅医療と介護の多職種連携会議(オンライン)にて、情報交換会を5月に実施。第2回多職種連携会議を7月に実施し、集合形式にて「明和町介護予防大作戦」を開催。</p> <p>在宅医療と介護連携拠点の定例会を毎月実施、会議録をメールで共有。</p>	<p>研修や会議は基本的にwebだが、施設等においては環境が整っていないところもあるため、ハイブリッド方式で実施。 今年度は集合形式も開催し、グループワークにて意見交換を行った。</p>	<p>webでは、グループワークを取り入れることが難しく、情報交換会も一方通行になりやすい。</p>	<p>web研修の方が事業所等の参加率が良いので、今後も会議や研修会など積極的に開催していきたい。 一方で、顔の見える関係づくりやグループワークなどの意見交換の場も作っていきたい。</p>	<p>救急搬送時や災害時の緊急連絡先として、緊急通報装置設置や災害時避難行動要支援者登録、また救急情報キットの配布を実施必要に応じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用についての相談支援。</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について(入退院支援マニュアル、エンディングノート、救急との連携シート等々。他市町が入手できるように記載願います)

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<p>・医療と介護の連携ハンドブックの活用 ・三重県介護支援専門員協会松阪支部が作成した入退院時の情報連携シートの活用</p>	<p>成年後見サポートセンターを設置し、研修や普及啓発等を行っている。</p>	<p>・救急医療情報キットの配布事業を実施しており、年に1回消防署と情報交換をしている。 ・松阪地域 高齢者施設における救急対応マニュアル作成のためのガイドライン(救急医療情報提供シート)の活用。</p>	<p>在宅医療・介護連携情報共有システム「すずの輪」を導入し、実施状況等の検証を行っている。</p>	<p>認知症講演会(住民向け) 「認知症ポジティブ！予防・ケア・共生のまちづくり」 講師:山口 晴保氏(群馬大学名誉教授)</p> <p>認知症の啓発活動として自殺予防対策とも兼ね、9月にショッピングセンターにて普及啓発活動実施。 公民館や図書館など、公共施設においてパンフレット等のコーナーを設置。 文化祭にてパンフレット等のコーナーを設置。</p>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(大台町)

●連携拠点名称	大台厚生病院
●目指すべき姿や方向性	本人の望む生活が叶えられるように、家族・地域住民とともに医療・介護の専門職等が在宅生活を支えていく

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <p>令和元年度に多職種でグループワーク等を重ね、奥伊勢地域の目指すべき姿を話し合っ以来「本人の望む生活を継続するための医療と介護の連携について」をテーマに継続して顔の見える関係づくりを行っている。</p> <p>大台厚生病院に大紀町とともに設置している奥伊勢相談窓口を連携拠点とし、目的に応じた研修の企画・運営を行っている。また、大台厚生病院で企画している研修会を地域の医療・介護職に公開していただいている。</p>	<p>研修会の開催 (住民対象にもしバナゲーム開催)</p> <p>自主グループ、認知症カフェ、町立図書館イベントにて開催</p> <p>4/27.5/25.7/13.7/14.7/21.11/24.12/7 (他職種向け研修会)</p> <p>5/13 もしバナゲーム</p> <p>7/15 権利擁護事業研修 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン」について</p> <p>10/24 WEB研修</p> <p>人生会議・施設での看取りについて</p> <p>11/18 ACP研修</p>	<p>・WEB研修にすることで、参加しやすい体制づくりを行っている。WEB研修でブレイクアウトルーム機能を利用しグループワークを行っている。土日の研修会も計画し、病棟看護師も参加しやすい環境を整えた。</p>	<p>・WEB研修のため、医療、介護、行政職員の顔の見える関係づくりが行いにくい。</p>	<p>・令和2年度より、他職種を対象としたACP研修会の講師を同じ講師に依頼し継続性のある、段階を踏んだ学びができています。専門職の知識は増え実践力をつけている。今後は一般住民対象に研修会を実施したいと考えている。</p>	

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<p>・「医療と介護の連携ハンドブック」(データ公表の予定はなく、松阪地域で運用している情報共有システムからのみダウンロード可能)</p>	<p>・自主グループ活動や高齢者大学等の住民を対象とし、もしバナゲームを使用し、人生の最期について考えるきっかけを作っている。</p>	<p>・「高齢者施設における救急対応マニュアル作成ガイドライン」(データ公表の予定はなく、松阪地域で運用している情報共有システムからのみダウンロード可能)</p>	<p>・松阪地域「鈴の輪」</p>		

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(伊勢市)

●連携拠点名称	伊勢地区在宅医療・介護連携支援センターつながり、(委託先)一般社団法人 伊勢地区医師会
●目指すべき姿や方向性	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者及び地域住民が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、包括的かつ継続的な在宅医療と介護の一体的な提供を可能とするために必要となる、多職種協働による支援体制の構築を目指す。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年4月に、伊勢地区医師会内に「伊勢地区在宅医療・介護連携支援センターつながり」を設置し、業務を委託(伊勢市、玉城町、南伊勢町、度会町)している。</li> <li>各市町担当者と「つながり」担当者として、対面で市町調整会議を定期的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専門職による部会を10部会設置し課題解決に向け活動</li> <li>連携シートの作成、運用評価実施、課題検討及び共有(Zoomメール等活用)</li> <li>地域研修会開催(年3回)(Zoom活用)</li> <li>多職種(医師含め)研修会開催(年3回)(Zoom)</li> <li>研修会のYou Tube録画配信実施</li> <li>ICTによる情報共有システム「つながりネットワーク」の構築、運用開始</li> <li>つながり便りの発行</li> <li>住民向け講演会開催(You Tube録画配信、ケーブルTVで期間放送)</li> <li>専門職からの相談対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種の意見から出た課題や疑問に対応した内容で地域研修会のテーマを検討し、社会情勢などを考慮して、研修テーマを考えている。</li> <li>研修会について、アンケート集計と公表ができるようシステム構築を図っている。</li> <li>住民啓発講演会を録画配信にて実施し、行政チャンネルで放送したり、HPからアクセスできる形にし住民が視聴しやすいよう工夫を行っている。</li> <li>効率的な事業運営のため、ICT化を積極的に導入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ACPIに関する理解や取組について職種間で違いがあるため、理解の促進を進めていくことが課題である。</li> <li>ICTによる情報共有システム「つながりネットワーク」の活用を広げ、効果的な運用を進めていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT化した情報共有システム「つながりネットワーク」の利用の促進。</li> <li>ACPIに関する課題を整理し取組内容の検討。</li> <li>コロナ後の、新しい形での顔の見える関係づくりや連携強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターや行政が高齢者の相談先として対応している。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACPI関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>入退院連携部会と入退院関係者部会にて情報共有ツールの作成、評価等を実施。</li> <li>伊勢地区入退院連携マニュアル 伊勢地区在宅医療・介護連携支援センター つながりHPに掲載(様式・マニュアルページよりダウンロード可能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアシステム啓発講演会開催(住民向)</li> <li>R6年1~2月You Tube録画配信</li> <li>R6年2月行政ケーブルテレビ放映予定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>多職種研修会、地域研修会 ライブ配信、You Tube録画配信の実施</li> <li>専門職部会の会議をオンライン(WEB)で実施</li> <li>「つながりネットワーク」の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ 【多職種・会員専用サイト】 研修会、会議、専門部会会議案内、結果を掲載</li> <li>様式・マニュアルダウンロード</li> <li>専門職種別の情報共有シート等様式集掲載。</li> <li>「つながり便り」発行</li> </ul>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(玉城町)

●連携拠点名称	伊勢地区在宅医療・介護連携支援センター「つながり」、(委託先)一般社団法人 伊勢地区医師会
●目指すべき姿や方向性	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者及び地域住民が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、包括的かつ継続的な在宅医療と介護の一体的な提供を可能とするために必要となる、多職種協働による支援体制の構築を目指す。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援についての取組状況
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内には医療機関は8カ所(うち町立病院1カ所、透析専門病院1カ所、耳鼻科1カ所、主に在宅医療専門クリニック1カ所)あり、医師看護師、受付事務員含めて連携している。がん検診、コロナワクチン接種業務への協力もあり、顔の見える関係である。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年4月に、伊勢地区医師会内に在宅医療・介護連携支援センター「つながり」を設置し、業務を委託(伊勢市、玉城町、南伊勢町、度会町)している。</li> <li>・各市町担当者と「つながり」担当者として、対面で市町調整会議を定期的に開催し、事業運営を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門職による部会を10部会設置し課題解決に向け活動連携シートの作成、運用評価実施、課題検討及び共有(Zoomメール等活用)</li> <li>・地域研修会開催(年3回)(Zoom活用)</li> <li>・多職種(医師含め)研修会開催(年3回)(Zoom)</li> <li>・研修会のYou Tube録画配信実施</li> <li>・ICTによる情報共有システム「つながりネットワーク」の構築、運用開始</li> <li>・つながり便りの発行</li> <li>・住民向け講演会開催(You Tube録画配信、ケーブルTVで期間放送)</li> <li>・専門職からの相談対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種の意見から出た課題や疑問に対応した内容で地域研修会のテーマを検討し、社会情勢などを考慮して、研修テーマを考えている</li> <li>・研修会について、アンケート集計と公表ができるようシステム構築を図っている。</li> <li>・住民啓発講演会を録画配信にて実施し、行政チャンネルで放送したり、HPからアクセスできる形にし住民が視聴しやすいよう工夫を行っている。</li> <li>・効率的な事業運営のため、ICT化を積極的に導入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACPIに関する理解や取組について職種間で違いがあるため、理解の促進を進めていくことが課題である。</li> <li>・ICTによる情報共有システム「つながりネットワーク」の活用を広げ、効果的な運用を進めていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT化した情報共有システム「つながりネットワーク」の利用の促進。</li> <li>・ACPIに関する課題を整理し取組内容の検討。</li> <li>・コロナ後の、新しい形での顔の見える関係づくりや連携強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター(直営)や行政が高齢者の相談先として対応している。</li> <li>・相談支援にあたる中で把握したケースにおいて、必要に応じて『みまもり家族』等の事業所につなげたり県社協など関係機関と連携したりして対応している。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACPI関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院連携部会と入退院関係者部会にて情報共有ツールの作成、評価等を実施。</li> <li>・伊勢地区入退院連携マニュアル</li> <li>伊勢地区在宅医療・介護連携支援センター</li> <li>つながりHPに掲載(様式・マニュアルページよりダウンロード可能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム啓発講演会開催(住民向け)</li> <li>R6年1~2月You Tube録画配信</li> <li>R6年2月行政ケーブルテレビ放映予定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種研修会、地域研修会</li> <li>ライブ配信、You Tube録画配信の実施</li> <li>・専門職部会の会議をオンライン(WEB)で実施</li> <li>・「つながりネットワーク」の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ</li> <li>【多職種・会員専用サイト】</li> <li>研修会、会議、専門部会会議案内、結果を掲載</li> <li>様式・マニュアルダウンロード</li> <li>専門職種別の情報共有シート等様式集掲載。</li> <li>・「つながり便り」発行</li> </ul>	28



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(南伊勢町)

●連携拠点名称	伊勢地区在宅医療・介護連携支援センターつなぎ、(委託先)一般社団法人 伊勢地区医師会
●目指すべき姿や方向性	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者及び地域住民が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、包括的かつ継続的な在宅医療と介護の一体的な提供を可能とするために必要となる、多職種協働による支援体制の構築を目指す。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療・介護連携】</b>                      ・平成30年4月に、伊勢地区医師会内に「伊勢地区在宅医療・介護連携支援センターつなぎ」を設置し、業務を委託(伊勢市、玉城町、南伊勢町、度会町)している。                      ・各市町担当者と「つなぎ」担当者として、対面で市町調整会議を定期的に開催し、事業運営を行っている。</p> <p><b>【南伊勢町独自(地域包括ケア関係者会議)】</b>                      町内の医療・介護・福祉関係者の質の高い関係づくり、顔の見える関係づくりをすることを目的として地域包括ケア関係者会議を開催している。</p>	<p>・各専門職による部会を10部会設置し課題解決に向け活動                      連携シートの作成、運用評価実施、課題検討及び共有(Zoomメール等活用)                      ・地域研修会開催(年3回)(Zoom活用)                      ・多職種(医師含め)研修会開催(年3回)(Zoom)                      ・研修会のYou Tube録画配信実施                      ・ICTによる情報共有システム「つなぎネットワーク」の構築、運用開始                      ・つなぎ便りの発行                      ・住民向け講演会開催(You Tube録画配信、ケーブルTVで期間放送)                      専門職からの相談対応                      【南伊勢町独自(地域包括ケア関係者会議)】                      研修会+意見交換会等を行っている。</p>	<p>・多職種の意見から出た課題や疑問に対応した内容で地域研修会のテーマを検討し、社会情勢などを考慮して、研修テーマを考えている。                      ・研修会について、アンケート集計と公表ができるようシステム構築を図っている。                      ・住民啓発講演会を録画配信にて実施し、行政チャンネルで放送したり、HPからアクセスできる形にし住民が視聴しやすいよう工夫を行っている。                      ・効率的な事業運営のため、ICT化を積極的に導入している。                      【南伊勢町独自(地域包括ケア関係者会議)】                      参加者の興味を引くような研修会の開催を目指しているが、意見交換も十分に行える場の設定をしている。また、コロナ禍以降は、オンラインでの開催を行っている。</p>	<p>・ACPに関する理解や取組について職種間で違いがあるため、理解の促進を進めていくことが課題である。                      ・ICTによる情報共有システム「つなぎネットワーク」の活用を広げ、効果的な運用を進めていくことが課題である。</p>	<p>・ICT化した情報共有システム「つなぎネットワーク」の利用の促進。                      ・ACPに関する課題を整理し取組内容の検討。                      ・コロナ後の、新しい形で顔の見える関係づくりや連携強化。                      【南伊勢町独自(地域包括ケア関係者会議)】                      定例的に開催できるようにしていきたい。</p>	<p>・地域包括支援センターや行政が高齢者の相談先として対応している。                      【南伊勢町独自】                      ・救急医療情報活用事業(救急医療情報キット)の実施                      ・該当者に対応が必要になったときは、役場の福祉部門や多気会福祉事務所、社協等関係機関と随時協議しながら連携をとって対応                      ・日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用の検討</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<p>・入退院連携部会と入退院関係者部会にて情報共有ツールの作成、評価等を実施。                      ・伊勢地区入退院連携マニュアル                      伊勢地区在宅医療・介護連携支援センター                      つなぎHPに掲載                      (様式・マニュアルページよりダウンロード可能)</p>	<p>・地域包括ケアシステム啓発講演会開催(住民向)                      R6年1~2月You Tube録画配信                      R6年2月行政ケーブルテレビ放映予定</p>		<p>・多職種研修会、地域研修会                      ライブ配信、You Tube録画配信の実施                      ・専門職部会の会議をオンライン(WEB)で実施                      ・「つなぎネットワーク」の構築</p>	<p>・ホームページ                      【多職種・会員専用サイト】                      研修会、会議、専門部会会議案内、結果を掲載                      様式・マニュアルダウンロード                      専門職種別の情報共有シート等様式集掲載。                      ・「つなぎ便り」発行</p>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(度会町)

●連携拠点名称	在宅医療・介護連携支援センター「つながり」(一般社団法人 伊勢地区医師会)
●目指すべき姿や方向性	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者及び地域住民が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、包括的かつ継続的な在宅医療と介護の一体的な提供を可能とするために必要となる、多職種協働による支援体制の構築を目指す。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p><b>【在宅医療】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に医療機関は2カ所あり、医師、看護師、受付事務員含めて連携している。往診を掲げている病院はないため、近隣市町の医療機関にも助けてもらっている。</li> </ul> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年4月に、伊勢地区医師会内に在宅医療・介護連携支援センター「つながり」に設置し、業務を委託(伊勢市、玉城町、南伊勢町、度会町)している。</li> <li>・各市町担当者と「つながり」担当者は、年6～7回Zoom又は対面で会議を開催し、事業運営を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門職による部会を10部会設置し課題解決に向け活動</li> <li>・連携シートの作成、運用評価実施、課題検討及び共有(Zoomメール等活用)</li> <li>・地域研修会開催(年3回)(Zoom活用)</li> <li>・多職種(医師含め)研修会開催(年3回)(Zoom)</li> <li>・研修会のYou Tube録画配信実施</li> <li>・ICTによる情報共有システム「つながりネットワーク」の構築、運用開始</li> <li>・つながり便りの発行</li> <li>・住民向け講演会開催(You Tube録画配信、ケーブルTVで期間放送)</li> <li>・専門職からの相談対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種の意見から出た課題や疑問に対応した内容で地域研修会のテーマを検討し、社会情勢などを考慮して、研修テーマを考えている。</li> <li>・研修会について、アンケート集計と公表ができるようシステム構築を図っている。</li> <li>・住民啓発講演会を録画配信にて実施し、行政チャンネルで放送したり、HPからアクセスできる形にし住民が視聴しやすいよう工夫を行っている。</li> <li>・効率的な事業運営のため、ICT化を積極的に導入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACPに関する理解や取組について職種間で違いがあるため、理解の促進を進めていくことが課題である。</li> <li>・ICTによる情報共有システム「つながりネットワーク」の活用を広げ、効果的な運用を進めていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT化した情報共有システム「つながりネットワーク」の利用の促進。</li> <li>・ACPに関する課題を整理し取組内容の検討。</li> <li>・コロナ後の、新しい形での顔の見える関係づくりや連携強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に地域包括支援センターが窓口となり、支援を行っている。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院連携部会と、入退院関係者部会にて、情報共有ツールの作成、評価等を実施。</li> <li>・伊勢地区入退院連携マニュアル</li> </ul> <p>伊勢地区在宅医療・介護連携支援センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりHPに掲載(様式・マニュアルページよりダウンロード可能)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム啓発講演会開催(住民向)</li> <li>・R6年1～2月You Tube録画配信</li> <li>・R6年2月行政ケーブルテレビ放映予定</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種研修会、地域研修会ライブ配信、You Tube録画配信の実施</li> <li>・専門職部会の会議をオンライン(WEB)で実施</li> <li>・「つながりネットワーク」の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ</li> </ul> <p>【多職種・会員専用サイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会、会議、専門部会会議案内、結果を掲載</li> <li>・様式・マニュアルダウンロード</li> <li>・専門職種別の情報共有シート等様式集掲載。</li> <li>・「つながり便り」発行</li> </ul>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(大紀町)

●連携拠点名称	直営(大紀町)
●目指すべき姿や方向性	

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援についての取組状況
<p><b>【在宅医療】</b></p> <p><b>【在宅医療・介護連携】</b></p> <p>・連携拠点として「奥伊勢在宅医療介護連携相談窓口」を設置している。</p> <p>・連携拠点では、関係機関からの相談、研修会実施等を担当している。年間2回の研修と、7回連携協議の場を設け、連携強化に努めている。</p> <p>・大紀町内医療機関・介護事業所の一覧情報を最新に更新し、連携に役立っている。</p>	<p>・大台厚生病院・大台町・大紀町協働で、多職種連携研修を年間2回実施する予定。である。令和5年度のテーマは「今後の基本的な感染対策について」</p> <p>「介護現場、医療現場の事例で学ぶ、ACPの実践について」である。</p> <p>・大紀町独自でも「ACPの基礎」というテーマで多職種協働研修をおこなっている。</p> <p>・大紀町内の居宅介護支援事業所と年2回の勉強会を行う予定。「成年後見制度について」「高齢者虐待の対応について」など。</p> <p>・大紀町内医療機関と介護事業に最新のサービス等の情報を提出していただき、共有出来る一覧を最新に更新した。</p>	<p>・コロナ禍でも実施できるようにウェブ研修を昨年度に引き続き取り入れた。</p>	<p>・WEB研修の参加方法がわからない事業所もあり。参加率が少なくなってしまう。</p>	<p>・今後も他職種研修において、町内事業所で事例発表を行いたい(困難事例、連携がうまくいった事例など)</p> <p>・対面方式の講義の開催で交流を深めたい</p>	<p>・奥伊勢相談窓口と連携をとりながら、支援を行えている。</p> <p>・急性期の3病院との支援の取組については連携できていない</p>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<p>・新たな「入退院時情報連携シート(病院⇄介護支援専門員・地域包括職員)」、病院連携一覧表作成中</p>	<p>・ACPの基礎(日経メディカル)著者</p> <p>①老健相生 施設長 医師 西川満則氏</p> <p>②快護相談所 和び咲び 管理者 主任介護支援専門員 大城京子氏</p> <p>講師迎え「ACPの基礎」の講演を実施した</p>				



# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5度の取組(鳥羽市)

●連携拠点名称	直営(鳥羽市)
●目指すべき姿や方向性	市全土として今ある医療・介護サービスを維持するとともに、離島や僻地でも在宅医療や訪問系サービスを利用でき、自らの意思で施設か自宅か選ぶことができる

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本土側の医療機関においては、在宅医療可能な医療機関数は変更なく維持している。</li> <li>・鏡浦地区で医療Maasを活用したオンライン診療の実証調査を行っている。</li> <li>・離島については、オンライン診療・服薬指導を導入し、その場になくても診察を受けられるようになっている。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療と介護の連携シートを活用し連携を図っている。</li> <li>・サービス担当者会議についても連携シートを活用し照会を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携の勉強会をweb又は対面で行っている。</li> <li>・住民向け講演会を実施している。</li> <li>・医療と介護の連携シートや在宅医療連携ノートを活用し関係者が情報共有を図っている。また、一部でMCSを活用した情報共有も行っている。</li> <li>・看取りの冊子を活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネタイムを毎年更新し、連携が取りやすい時間等を共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以降webでの開催が増えたことで、多職種での顔の見える関係づくりが希薄になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で希薄になった医療と介護の関係を再度密なものにするため、お互いの現状を伝え合う機会を設けたり、事例検討を可能であれば取り入れていきたい。</li> <li>・ACPIについて支援者や市民に向けそれぞれに周知啓発を行ってきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に事業としてはないが、ケースによって対応を検討し必要な支援につなげている。(権利擁護事業、生活困窮者支援事業など)</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
市内の病院がないためマニュアル作成はしていません	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携の勉強会で「多職種で関わるACP～私たちにできること」(講師:橋北楽々館在宅介護支援センター 鈴木裕美氏)</li> <li>・市民が自分ごととして考えるきっかけとして広報にACPの記事掲載し希望者にはエンディングノートを配布している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離島の市立診療所と消防の間では、MCSを活用し情報共有を図っている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画「いのちの停車場」の上映会を3か所で行う</li> </ul>	32

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年年度の取組(志摩市)

●連携拠点名称	直営(志摩市)
●目指すべき姿や方向性	市が主体となって、志摩医師会をはじめ関係団体と連携し、事業の推進体制を構築する。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援についての取組状況
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関によっては、受診送迎、訪問診療、電話診療を実施している。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携の研修会、医療・介護関係者も含まれる地域ケア会議を開催。</li> <li>・志摩病院、志摩医師会においても独自に多職種連携の研修会を開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修会</li> <li>・志摩市地域包括ケア推進協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修会は、志摩医師会と三重県介護支援専門員協会南勢志摩支部と共催で実施し、事例検討を通じてケアマネジャーのスキルアップを図る。</li> <li>・多職種連携研修会にグループワークを取り入れ、多職種同士の交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携研修会への参加者は固定化されている傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討を取り入れた多職種連携の研修会を継続して取り組む。</li> <li>・地域課題の検討や情報共有のための地域ケア会議を継続して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺言や任意後見制度等を相談できる公証相談を年4回実施している。</li> <li>・市民向けに成年後見制度利用促進の講演会を年1回開催し、終活についての内容を含めている。</li> <li>・地域に出向いて行うあんせんあんしんくらし講座で、成年後見制度等について周知している。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入退院については、病院の地域連携室と地域包括支援センターで随時連絡を取り合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度利用促進の講演会を年1回開催し、ACPやエンディングノートについての内容も盛り込んでいる。</li> <li>・市民向け講演会を「これからの生活を考える生涯設計講座」のテーマで行う予定。</li> <li>・講師：ふじ社会福祉士事務所 藤井由紀子氏</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急時の情報として救急医療情報キットを活用。(70歳以上の高齢者のみの世帯・独居等に設置)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民向け講演会を「これからの生活を考える生涯設計講座」のテーマで行う予定。</li> <li>・講師：ふじ社会福祉士事務所 藤井由紀子氏</li> </ul>	

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(尾鷲市、紀北町)

●連携拠点名称	紀北広域連合
●目指すべき姿や方向性	市町、広域連合、地域包括支援センター、地域の中核病院が中心となり、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療・介護において必要な連携を図る。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援についての取組状況
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>管内の診療所の多くで訪問診療を実施しているが、訪問診療の希望に答えられる程ではないため、医療機関の負担が増加している。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尾鷲総合病院内に、在宅医療介護連携支援センターを設置し、関係業務を担当している。</li> <li>毎月課題抽出及び対応策の検討を目的として、市町担当者、包括支援センター職員と打ち合わせを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>懇談会の開催 管内にある総合病院と介護保険施設等職員が一同に集まり懇談会を開催。</li> <li>意見交換会の開催 介護支援専門員を対象に、カフェ方式で意見交換会を開催。(10月に開催し、以後は定期的を実施予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>懇談会については、事前に各事業所を訪問し、それぞれが持つ課題や多職種連携における疑問点の聞き取りを行った上で話し合いを行うなど、有意義な懇談会となるよう努めた。</li> <li>意見交換会については、勉強会や研修会という形ではなかなか情報共有までいけないという声があったことから、気兼ねなく話せる場となるよう意見交換会の趣旨の理解に努め開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>懇談会や意見交換会等を重ね、同職種間でのやり取りは行いやすいが、医療職と介護職を交えた多職種間では、まだまだ連携まで時間がかかる印象を受ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や勉強会に加え、多職種間で気兼ねなく情報交換が行えるよう、定期的に集まりの場を設けていきたいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管内の実情に合わせた「身寄りのない人の入院・入所に関するガイドライン」を作成し、管内事業所に周知活動を行っている。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>身寄りのない人の入院・入所に関するガイドラインを作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民向けのACP啓発パンフレットを作成中。(今年度中に完成予定)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>主治医と介護支援専門員連携シート 紀北広域連合ホームページ URL (<a href="https://kihokukouiki.jp/care/">https://kihokukouiki.jp/care/</a>)</li> </ul>

# 在宅医療・介護連携に関する課題と令和5年度の取組(熊野市、御浜町、紀宝町)

●連携拠点名称	委託先:紀南病院
●目指すべき姿や方向性	紀南地域在宅医療介護連携支援センターが機能し、医療・介護の連携により元気な高齢者が増え、介護等の支援を受けながら地域で支え合って生活できる地域を目指す。また、在宅、施設、病院など自分が最期を過ごす場所として住民自身が選択できる地域を目指す。

## (1)在宅医療等の状況や取組等について

①在宅医療および在宅医療・介護連携の状況	②取組	③取組について工夫していること	④困難に感じていること	⑤今後取り組んでいきたいこと	⑥身寄りのない方への支援についての取組状況
<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年に紀南地域に在宅医療を専門とする医療機関が開院し、在宅看取りの選択肢は広がっている。</li> <li>地域の医療機関でもかかりつけの患者さんは、看取りまで行ってくれる医療機関もあるが地域的には医師不足の状況である。</li> </ul> <p>【在宅医療・介護連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紀南地域在宅医療介護連携支援センターのコーディネーターと医師会、基幹病院、市町の地域包括支援センターが連携し、医療・介護連携の課題解決に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度から多職種連携研修会として、シリーズで看取りをテーマにした研修会を開催している。令和4年度までは、地域の感染状況によりハイブリッド又はオンラインのみで開催していたが、令和5年度は集合型で開催している。</li> <li>多職種連携の研修と交流を目的に、イベント(文化祭・運動会)を開催した。</li> <li>医療介護分野における人材不足の実態を把握するため、医療機関及び介護保険事業者に「サービス提供実態調査」を実施した。</li> <li>感染管理認定看護師による新型コロナの感染症の動向と現場での感染予防管理について事業所等で出前講座を実施している。</li> <li>住民啓発の講演会を検討中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紀南地域での在宅医療・介護連携の取り組みを全国国保地域医療学会等で発表をし、地域での取り組みを関係者に伝えると共に他地域の好事例を学ぶ機会としている。</li> <li>人材確保についての取り組みについては、在宅医療・介護分野だけではなく、生活支援体制整備事業の会議にも議題として挙げて検討している。</li> <li>多職種で任意団体を設立、事業を実施する際、共催などとする事で、多職種に広く周知、協力を得ることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に介護人材の不足が深刻であるが、高齢化・少子化で人口減少も著しいため、新規の介護人材を確保することが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインを併用した研修会や事例検討会で顔の見える関係づくりを継続していく。</li> <li>患者さんの意思決定支援とACPの普及に取り組み、できる限り本人の望む医療や介護が受けられるよう取り組んでいく。</li> <li>医療介護人材確保を目指し、医療機関や事業所、行政が連携して取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紀南地域としては特にしていない。</li> </ul>

## (2)在宅医療・介護連携事業において、他市町と共有できる情報や資料について

①入退院支援関係	②ACP関係	③救急との連携関係	④ICT関係	⑤住民普及啓発や支援者向け研修資料関係	⑥その他(情報、資料など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時情報提供書…紀南病院HP→あいくる→様式ダウンロード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御浜町の取り組みとして、早期からのACPを意識していただくために、「エンディングノート簡易版」を「事業対象者・要支援1・2」の方(包括担当ケース約20件)にケアマネジャーから提案し、希望者に対して、実施している。23年に一度、「エンディングノート簡易版」を見直していくという運用となる予定である。また、御浜町内高齢者サロンなどにおいて、認知症啓発と一緒にACP啓発も行い、エンディングノート(簡易版)に触れていただき、希望者に本格的なエンディングノートを配布している。</li> <li>熊野市では熊野市版のエンディングノート(簡易版)を作成し、高齢者サロンなどにおいて、医療・ケアの意思決定などについての啓発している。</li> <li>紀宝町の取り組みとして、エンディングノートを希望者に配布。また、地域包括ケア会議において、医療と介護に特化した簡易版エンディングノートを作成。地域からの依頼に応じ、若い支度講座を実施した。救急キットの案内送付時、人生会議の啓発チラシを同封している。</li> <li>11月30日、人生会議の日には、住民啓発講演会「わがらの町の在宅医療」を開催。在宅診療医による講演、多職種での寸劇により啓発活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度第1回紀南地域在宅医療介護連携推進会議において、紀南地域の救急搬送の現状と課題について消防署の職員より現状・課題の報告をいただき、意見交換を行った。</li> <li>救急時の情報として市町において救急医療情報キットを活用している。</li> <li>熊野市:75歳以上独居の方に救急キットを配付。</li> <li>御浜町:救急キットについては、基本的には65以上独居世帯であるが、高齢者世帯で、持病などがあり、自宅療養に不安があり希望する世帯や64歳以下の障がい者に対しても対応している。</li> <li>紀宝町:1人暮らしの65歳、夫婦共に75歳以上となる世帯に対して、救急キット作成の案内を送付している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTに関しては、現状では特に具体的に検討している内容はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座一覧…紀南病院HP→あいくる→様式ダウンロード→出前講座一覧</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紀南地域医療・介護資源情報…熊野市・御浜町・紀宝町HP参照</li> </ul>